

第3回『適応自治体フォーラム』開催のお知らせ(最終)

拝啓 盛夏の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

2018年6月には「気候変動適応法」が制定・公布されて年内の施行を目指して準備が進められ、地方自治体における気候変動適応計画の策定もさらに重要性が高まっているところです。

さて、2015年度より5か年の予定で実施している文部科学省「気候変動適応技術社会実装プログラム（SI-CAT）」では、地方自治体が主体的に気候変動適応策を検討する際に必要な科学的知見・情報が得られるよう、地域の将来の環境を予測する基盤的技術を整備し提供するとともに、地域特有の気候変動の影響を考慮した適応策の立案に資するアプリケーションや策定手法に関して導入支援を行うことを目的としています。

法政大学は、この研究プログラムの一員として、地方自治体の適応策の取り組み状況の把握・分析、気候変動予測や影響評価に係わる技術への自治体ニーズの抽出、住民参加型の適応立案手法と地域社会の適応シナリオの開発などを実施しております。

その一環として、昨年、一昨年と第1回適応自治体フォーラム、第2回適応自治体フォーラムを開催させていただき、SI-CATの気候モデル・影響評価の専門家や、全国の自治体担当者を中心に、各回とも100名前後の関係者の参加を得て大変活発な情報共有と意見交換の場となりました。本年度の第3回では、最新の技術開発の成果が出つつあることを受けて「気候科学技術・データの自治体行政への実装化プロセスの検証と課題」をテーマとして開催いたします。ご多忙のところを誠に恐縮ではございますが、ぜひご参加いただけますようお願い申し上げます。

なお、お申し込みにつきましては、以下の申込サイトにて承ります。お名前とご所属、希望する後半の分科会（適応計画全般、農業、防災、暑熱を想定しております）などの参加の有無とともにお知らせ下さい。

敬具

記

日時：2018年8月28日（火）10時～17時20分

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 2～3階



※本フォーラムは文部科学省『気候変動適応技術社会実装プログラム』の支援を受けて実施されます。

お問い合わせ：法政大学地域研究センター
 (電子メール) umineko3.hosei@gmail.com
 (電話)03-5228-0531

議事次第

司会：田中博春(法政大学客員准教授)

10:00～10:05 開会のご挨拶と SI-CAT プログラムのご紹介

木村富士男(SI-CAT プログラムディレクター・筑波大学名誉教授)

10:05～10:10 フォーラム開催の趣旨と概要

田中充(法政大学社会学部教授)

10:10～10:30 話題提供①「近未来予測とダウンスケーリング技術とは？」

石川洋一(海洋研究開発機構 気候変動適応技術開発プロジェクトチーム プロジェクト長)

10:30～10:50 話題提供②「気候変動の影響評価技術の開発」

脇岡靖明(国立環境研究所 社会環境システム研究センター 地域環境影響評価研究室 室長)

10:50～11:10 話題提供③「気候変動適応法と地域適応コンソーシアム事業について」

大井通博(環境省地球環境局総務課気候変動適応室 室長)

11:10～11:25 話題提供④「大阪市の気候変動適応計画について」

岡本充史(大阪市環境施策部環境施策課 課長)

11:25～11:40 話題提供⑤「海外自治体の適応計画事例について(国外適応策自治体ネットワーク調査)」

内田東吾(イクレイ日本 事務局長)

11:40～12:00 話題提供⑥「地方自治体における適応計画策定動向と SI-CAT におけるコデザインの展開」

馬場健司(法政大学客員教授・東京都市大学教授)

12:00～12:30 総合討論(質疑と意見交換)

12:30～13:30 休憩(各分科会会場へ移動)

13:30～16:10 分科会(防災、農業、暑熱、適応計画全般)によるワークショップ

各分科会のファシリテーター：増原直樹、土井美奈子、木村道徳、稲葉久之、小杉素子、吉川真珠美

- SI-CAT モデル自治体等による社会実装の経験・事例紹介
- 現在の影響・ニーズとシーズの相互理解
- 仮想的な適応策(計画)案の検討・地域適応センターの検討

司会：馬場健司(法政大学・東京都市大学)

16:25～17:15 各分科会からの報告と意見交換・総合討論

17:15～17:20 総括と閉会のご挨拶

田中充(法政大学)

終了後に有志による意見交換会を予定(ボナソアードタワー25階スタッフクラブ)